

令和4年度 学校自己評価最終報告書

石川県立七尾特別支援学校輪島分校

| 重点<br>目標  | 具体的取り組み  | 主<br>担当   | 評価の観点   | 実現状況の達成度<br>判断基準  | 中間結果   | 分析（成果と課題）  |
|---|--|---|---|---|--|--|
| 1<br>授業<br>実践<br>力<br>の<br>向<br>上                                   | ① 知的障害のある児童生徒を対象とした特別支援学校における教科指導の充実事業に合わせ、本校における教科指導の充実を図る。学部研究の中で教科の指導内容が分かる資料を作成し、授業実践を行い、教科の視点での評価を明確にすることで授業改善につなげる。                | 学習<br>支援<br>課   | 【満足度指標】（教員）<br>7月と12月にアンケートを取り、教員が教科の視点で授業計画を立て、実践・評価を行い、授業改善につながったと感じることができた教員の割合を測る。<br>4：大変あると感じる<br>3：ある程度あると感じる<br>2：あまり感じない<br>1：全く感じない | アンケート結果が<br>A：4と3合わせて80%以上<br>B：4と3合わせて70%以上<br>C：4と3合わせて60%以上<br>D：4と3合わせて60%未満<br>【達成目標B以上】 | 4： 33%<br>3： 67%<br>2： 0%<br>1： 0%<br>4と3合わせて100%であった。<br>【A：100%】 | 成果としては、教科指導の充実事業や要請訪問、初任・3年研の研究授業の検討会や整理会を学部を超えて全職員で共有したことで、教科の視点での評価について知識、理解が深まり、授業改善につながったと感じた教員がほとんどだった。<br>課題としては、本校の実態として、年度によって児童生徒数が大きく異なるため、学習グループや授業形態の工夫が必要である。                           |
| 学校関係者評価委員会の評価   |  | 教員自身の評価であり、特別支援学校では児童生徒がどう思っているか評価することは難しいが児童生徒の思いを保護者も知りたいと思われる。また、輪島分校が取り組んでいることを地域へも発信してほしい。ホームページだけではなく、紙面で回覧できると良い。  |   |   |  |  |
| 学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策  |  | 児童生徒個々の成長が感じられ、学校としての取り組みが伝わるよう、保護者や地域の方々への発信に努めていく。  |   |   |  |  |
| 2<br>組織<br>的<br>・<br>系<br>統<br>的<br>な<br>キ<br>ャ<br>リ<br>ア<br>教<br>育 | ① 児童生徒が自らの学習状況やキャリア形成に見通しをもって取り組み、振り返りを行うことで、自身の変容や成長を感じ、学びの蓄積ができるように輪島分校版キャリアパスポートを作成する。家庭へは、学期毎にキャリアパスポートを持ち帰り、児童生徒の変容や成長を共有できる機会を設ける。 | 学習<br>支援<br>課   | 【満足度指標】（保護者）<br>7月と12月にアンケートを取り、キャリアパスポートを通して児童生徒の変容や成長を感じることができた保護者の割合を測る。<br>4：大変あると感じる<br>3：ある程度あると感じる<br>2：あまり感じない<br>1：全く感じない            | アンケート結果が<br>A：4と3合わせて80%以上<br>B：4と3合わせて70%以上<br>C：4と3合わせて60%以上<br>D：4と3合わせて60%未満<br>【達成目標B以上】 | 4： 26%<br>3： 74%<br>2： 0%<br>1： 0%<br>4と3合わせて100%であった。<br>【A:100%】 | 成果として、様々な行事の振り返りなどの用紙を綴り保護者に見てもらうことで、中間時に比べ、児童生徒が色々なことにチャレンジしていることを知れたと回答した保護者が21%から42%に増え、新たな発見があったと回答した保護者は0%から15%に増えた。全体としても成長を感じた保護者が100%となった。<br>次年度以降として、この1年だけで終わるのではなく継続してこの取り組みを行っていく必要がある。 |
| 学校関係者評価委員会の評価   |  | キャリアパスポートの取組は良いと思われるため、継続し蓄積してほしい。輪島分校で学んだ児童生徒が卒業後、どのように就労し、生活しているのか、保護者の関心も高い。コロナ禍であったことが地域との結びつきを希薄にしたような気もするが、将来、地域に戻った時の子供たちのことを、生き方指導の情報を保護者や地域の方々と共有できると良い。 |   |   |  |  |
| 学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策  |  | キャリアパスポートは次年度も継続し、そこに綴る内容についても再度見直し、児童生徒自身が自分のことを考えたり、成長を感じたりできるものになりたいと考えている。また、卒業生との懇談会等も検討したい。   |   |   |  |  |

|                          |            |   |  |       |   |  |  |   |
|--------------------------|------------|---|--|-------|---|--|--|---|
| 3                        | 安心・安全な学校作り | ① | 学校保健として、生きる力をはぐくむ歯科保健指導に取り組む。一人一人の発達段階に考慮しながら、歯・口の健康作りの活動を通して、健康意識や健康行動の変容を促し自立に向けた態度や習慣を身につけるよう継続的に指導する。              | 生活支援課 | 【努力指標】（教員）<br>治療率を上げ、う歯の保有率が改善されたかで評価する。<br>4：う歯保有率0%<br>3：う歯保有率10%未満<br>2：う歯保有率20%未満<br>1：う歯保有率20%以上                           | 2回の歯科検診と受診結果報告書から<br>A：う歯保有率0%<br>B：う歯保有率10%未満<br>C：う歯保有率20%未満<br>D：う歯保有率20%以上<br>【達成目標B以上】            | 2回の歯科検診と受診結果報告書から<br>小学部9.1%<br>中学部50%<br>高等部12.5%<br>全体では14.3%であった。【C：う歯保有率20%以下】 | 結果として、う歯保有率を10%以下とすることができなかった。要因は、一度治療しても、また新たなう歯ができてしまうほど、普段のはみがきがしっかり定着していないということ、歯科受診が怖く治療ができない児童生徒がいることが考えられる。6月に全国小学生はみがき大会に参加し、繰り返し歯の磨き方や大切さを伝え、はみがきは上達し習慣化してきたが、まだまだ磨き残しが多い状態で定着には至らなかった。今年度は2回歯科検診を実施したり学校保健委員会で歯と口の健康をテーマに開催したりと、歯科保健指導に積極的に取り組むことができた。来年度も継続してはみがきの定着と、家庭と連携した歯科保健指導で治療率アップにつなげていきたい。 |
| 学校関係者評価委員会の評価            |            |   | 歯みがきについては学校と家庭で協力しあい、児童生徒の齲歯保有率が下がると良い。  |       |   |  |  |   |
| 学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策 |            |   | 歯科受診が難しい児童生徒もいるため保護者の協力や連携は必要であるが、学校でも歯の磨き方、歯と口の健康について取り上げていきたい。   |       |   |  |  |   |
| 4                        | 業務の効率化     | ① | ICT活用と書類や電子データ等の情報を整理・整頓し、ファイル等を適正に管理して計画的かつ効率的に業務に取り組む。取り組み例として諸会議等の資料のペーパーレス化、机上整理等を行う。                              | 全教職員  | 【努力指標】（教員）<br>8月と1月にアンケートをとる。情報を整理し効率的な業務となるよう工夫した回数が学期に3回以上の教員の割合が<br>A 80%以上である。<br>B 70%以上である。<br>C 60%以上である。<br>D 60%未満である。 | アンケート結果で「情報を整理し、工夫して業務に取り組むことができた。」と答えた教員の割合が<br>A：80%以上<br>B：70%以上<br>C：60%以上<br>D：60%未満<br>【達成目標B以上】 | 3回以上整理整頓を実施した職員の割合は67%<br>2回が22%<br>1回が12%<br>【C：60%以上】                            | 3回以上整理整頓を行った教員の割合が中間期と比較し5%減少した。これは整理整頓が業務の効率化につながったと回答した職員は100%であるが、整理整頓が後回しになったり書類が多すぎたりして整頓できなかったことで「工夫した回数が3回以上」の割合が減少したと考えられる。今後は回数に限らず業務能率が上がるようデータや資料の見直し等を行い、計画的かつ定期的に整理整頓を行う必要がある。   |
| 学校関係者評価委員会の評価            |            |   | ICT活用において教員の中で偏りはないか。  |       |   |  |  |   |
| 学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策 |            |   | ベテラン教員の中には苦手意識を持つ教員もいるが、ICT活用が得意な教員や授業において活用している教員もいるため、活用に関する抵抗感は低いと感じる。データや紙媒体の整理整頓を行い、必要に応じて使い分けをし業務の効率化に繋がるよう努めたい。 |       |   |  |  |   |